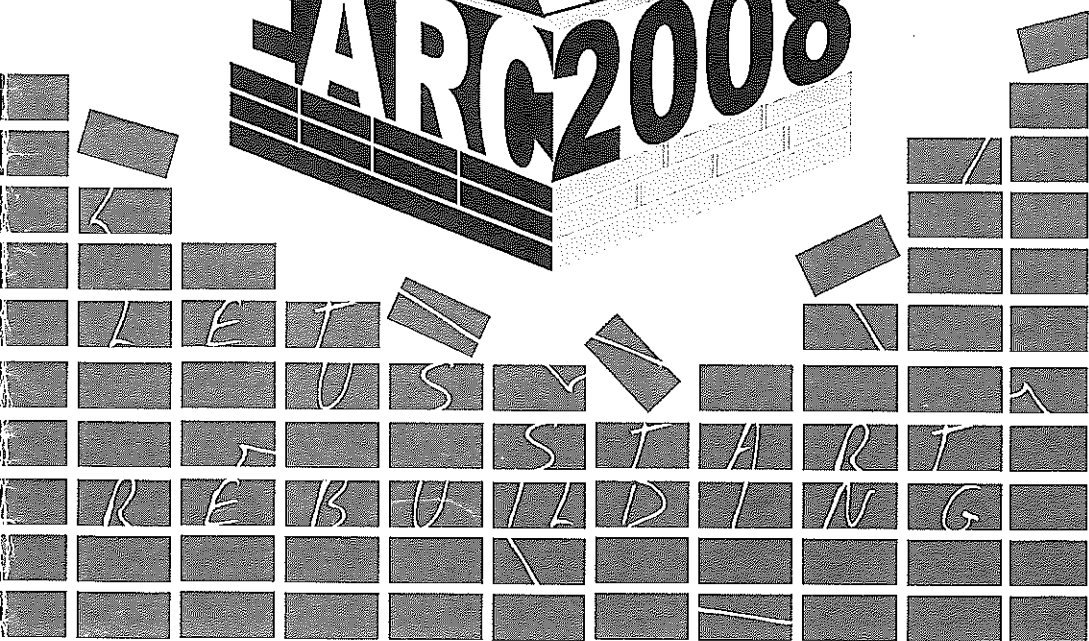


Let us start rebuilding

～ネヘミヤ記の手引き～



目次

		ページ
はじめに		1
ネヘミヤ記緒論		2
イスラエルの年表		3
1 罪の告白の祈り	ネヘミヤ記 1 章	4
2 再建への準備	ネヘミヤ記 2 章	6
3 再建の働き手	ネヘミヤ記 3 章	8
4 再建における困難	ネヘミヤ記 4 章	10
5 共同体の再建	ネヘミヤ記 5 章	12
6 城壁の完成	ネヘミヤ記 6 章	14
7 共同体の霊的な再建	ネヘミヤ記 8 章	16
8 告白の祈り	ネヘミヤ記 9 章	18
あとがき		20

はじめに

聖書は「わたしたち」に語られています。
もちろん「私個人」にも語られていますが、共同体に
語られた言葉であることを忘れてはならないでしょう。

この聖書研究のテキストは

「共同体の再建」をテーマにしています。

ネヘミヤ記にはネヘミヤとイスラエルの民が捕囚の後
エルサレムの城壁を再建する姿が描かれています。

神様が彼らを通してなしたことは、

単なる土木工事ではありませんでした。

罪深いイスラエルの民をもう一度約束の地で集める、
という主の深い摂理と憐れみが描かれているのです。
この回復の書、ネヘミヤ記と一緒に学んでみませんか？

ネヘミヤ記緒論

北イスラエル王国は BC721 年にアッシリヤ帝国により、南ユダ王国は BC606 年にバビロニア帝国により占領され、イスラエル人は異教の地へ強制移住されました。その後、南ユダを占領したバビロニア帝国もペルシヤ帝国によって倒されました。そして BC538 年、ペルシヤ帝国のクロス王はイスラエル人を捕囚から解放しました。

エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記はいずれも、この後の BC536 年から BC432 年の出来事を書き表しています。エステル記にはペルシヤ帝国に残った民の生活が記され、エズラ記には神殿再建の出来事が詳しく書かれました。そして、本書が取り扱うネヘミヤ記には、エルサレムの城壁再建と律法による民の教育に関する出来事について記されています。そこには著者であるネヘミヤが信仰共同体の再建のために苦闘し、祈る姿がいたるところに表されています。そして、私たちは祈りに応え、共闘してくださっている神の憐れみと真実に目が開かれていくのです。

イスラエルの年表

- BC721 アッシリヤ帝国が北イスラエル王国を捕囚として連れ去る
- BC609 アッシリヤ帝国が崩壊
- BC606 バビロニア帝国が南ユダ王国を捕囚として連れ去る
- BC539 ペルシヤ帝国がバビロニア帝国を征服
- BC538 ペルシヤ帝国のクロス王が捕囚からの解放令を發布
- BC536 イスラエルの民 4 万 9897 人がバビロンからエルサレムに帰還
- BC535 神殿の工事に着手し、間もなく中止する (エズラ記 4 章)
- BC520 ハガイとゼカリヤにより工事が再開する (エズラ記 5-6 章)
- BC515 神殿完成
- BC478 エステルがペルシヤ王妃となる (エステル記)
- BC457 エズラがバビロンよりエルサレムに出発する (エズラ記 7 章)
- BC444 ネヘミヤ、城壁を再建する (ネヘミヤ記)
- BC331 ペルシヤ帝国滅亡

参考資料：ヘンリー H. ハーレイ「聖書ハンドブック」いのちのことば社 1980

1

罪の告白の祈り

ネヘミヤ記 1 章

BC538 年、ペルシヤ帝国のクロス王は捕囚の民であったユダヤ人に帰還命令を發布しました。しかし、それから長い年月が経った BC444 年（アルタシャスタ王の第 20 年）においても、ユダヤ人とエルサレムは未だに大変な状況にありました。

1. 1 節と 11 節から、ネヘミヤについてどんなことがわかりますか。
2. ユダヤ人とエルサレムはどのような状況でしたか。
3. なぜ、ユダから来た人々はネヘミヤに会いに来たのだと思いますか。
4. なぜ、ネヘミヤはユダヤ人とエルサレムの状況をたずねたのだと思いますか。

5. ユダからの人々の答えを聞いたネヘミヤの気持ちはどのようなものだったと思いますか。

6. ネヘミヤの罪の告白(6節、7節)から考えましょう。
 - a. イスラエル人の罪とは具体的に何ですか。なぜネヘミヤはイスラエル人の罪を告白しているのですか。

 - b. ネヘミヤの言う「私」や「私たち」の罪とは何ですか。ここから彼が罪について、どのように理解していると思いますか。

7. ネヘミヤの祈りから、神様はどのような方であると分かりますか。

8. 11節「きょう、このしもべに幸いを見せ、この人の前に憐れみを受けさせて下さい」との祈りから、ネヘミヤは何を期待しているのだと思いますか。

まとめ

ネヘミヤの祈りから、あなたは何を教わりましたか。私たちは、共同体(教会、学内グループ、地区活動など)のためにどのような祈りをささげたら良いでしょうか。

2

再建への準備

ネヘミヤ記 2 章

アルタシャスタ王に献酌官として仕えていたネヘミヤは、自分の故郷が近隣の国からの迫害を受け廃墟となっていることを聞きました(1章)。廃墟とは神の臨在が取り去られていることを意味します。再建の機会を伺いながら4ヶ月が経ったあるとき、不思議なかたちで事態が動きます。

1. 1-2節から、ネヘミヤについてどんなことがわかりますか。またネヘミヤは、なぜ「ひどく恐れて」という態度をとったのでしょうか？
2. 3節、先祖の町エルサレムが廃墟となっていることは、ネヘミヤにとってどんな意味がありましたか？
3. 6-8節で、王は根ネヘミヤの願いを聞き入れて彼を総督とし、城壁再建の資材も与えました。8節、なぜネヘミヤの上に「神の恵みの御手」があったのでしょうか？

4. エルサレムに到着したネヘミヤですが、なぜしばらく計画を誰にもつげなかったのでしょうか (11、12 節)。

5. ネヘミヤは胸を痛めつつ廃墟の城壁を視察して回りました。彼はどのようなことに気づいたのでしょうか。

6. 17 節、「城壁を建て直す」ことはどんな意味を持っているのでしょうか。

7. 18 節、なぜ民は「さあ、再建に取りかかろう」と語ることができたのでしょうか。

8. 19 節で周囲の敵からの攻撃が始まっていることがわかります。しかしネヘミヤは「天の神ご自身が、私たちを成功させてくださる」(20 節)、ということができました。なぜでしょうか。

まとめ

あなたの周りには、どのような廃墟がありますか。その廃墟の再建のために、あなたはネヘミヤと民の姿からどのようなことを教えられますか。

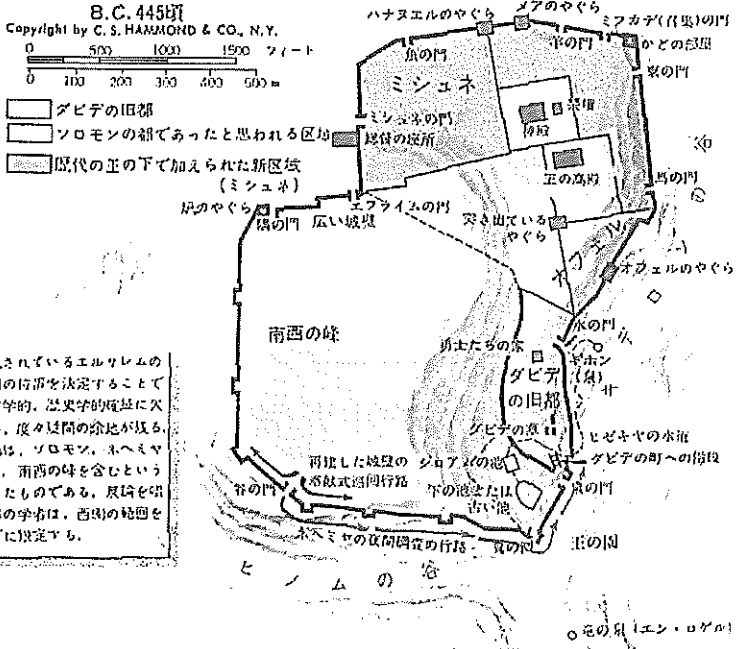
3

再建の働き手

ネヘミヤ記 3 章

いよいよネヘミヤたちは、城壁の再建に取り掛かります。門を中心に具体的な担当分担なされていますが、これは羊の門から円を書くように描かれていることがわかります。(下図参照)

ネヘミヤ時代のエルサレム



『新聖書辞典』より

1. 城壁の再建に必要なものを挙げてみましょう。
2. 城壁の再建に携わっている（またいない）人々は、どのような人々ですか。その中で特に心にとまった働き人をそれぞれあげてみましょう（理由もあわせて）。
3. 再建に携わっている人々の中には、何か共通点がありますか。

まとめ

城壁の再建の箇所から、私たちの生活においてどんなことが学べるでしょうか。

4

再建における困難

ネヘミヤ記 4 章

ネヘミヤたちは、再建に取り掛かりましたが、それは決して平坦な道ではありませんでした。

1. サヌバラテとトビヤのたくらみ (1-6 節)
 - a. サヌバラテとトビヤの言葉に注目しましょう。彼らは、何をたくらんでいたのでしょうか。
 - b. この攻撃に、ネヘミヤはどのように対応していますか。ネヘミヤはどうしてこのような行動とったのでしょうか。また、とれたのでしょうか。
2. 攻撃の中で (7-14 節)「城壁はみな、その半分まで継ぎ合わされ」(6 節) ました。これに対し、サヌバラテ、トビヤ、アラブ人、アモン人、シュドデ人たちは、怒り、攻め入り、混乱を起こそうと陰謀を企てます。このときイスラエルの民は祈りと見張りをし、工事は中断してしまっ たようです。(参照 4:9,15)
 - a. 陰謀はどのようなものでしたか。
 - b. その結果、民たちはどのような気持ちになりましたか。(10,12,14 節)

- c. b. のような気持ちになるときがありますか。それはどんなときでしょうか。
3. 立ち上がるネヘミヤと民たち (14-23 節)
- a. 攻撃の中、ネヘミヤが立ち上がります (14 節)。なぜネヘミヤはどのように立ち上がることができたのでしょうか。
- b. どうしてネヘミヤたちは、工事を続けることが、できたのでしょうか。

まとめ

今日の箇所から、神様はどのような方であることがわかりますか。

5

共同体の再建

ネヘミヤ記 5 章

ユダヤ人の間に貧富差の拡大が生じ、生活難を覚える者たちが窮状を訴えています。バビロン捕囚から帰還した民の中には、捕囚当時よりも生活水準が下がり、食べて生きていくという最低限の生活を維持するのにも困難な人たちがいたようです。この章では、ネヘミヤがそのようなユダヤ人共同体を建て直していく姿から学びます。

1. 共同体崩壊の危機（1～9節）

- a. 「強い抗議の声を挙げた」（1節）ユダヤ人たちは、どのような状況下にいたのでしょうか。
- b. ネヘミヤは「おもだった者たちや代表者たち」（7節）を2度にわたって非難しています。何がいけなかったのでしょうか？（c.f. 申命記 23：19, 24：10～13）

2. 共同体の建て直し（10～13節）

- a. ネヘミヤは借金と利子の帳消し、担保としていた土地の返還を命じています。この命令は民にどんな影響を与えたのでしょうか？
- b. 民は「アーメン」（13節）という告白をもって、ネヘミヤの命令に従っています。（c.f.6：18）あなたの学内（共同体）が「アーメン」

という告白へと導かれるとは、どのようなことでしょうか？

3. ネヘミヤを支えていた神（14～19節）

- a. 19節のネヘミヤの祈りには、彼のどのような思いが詰まっていると思いますか？また、ネヘミヤにとって神はどのようなお方だったと思いますか？

まとめ _____

あなたの学内（共同体）を再建していくために、あなたはリーダーをどのように支えていくべきでしょうか？

リーダーであるあなたは学内を再建していくためにどうすべきでしょうか？

6

城壁の完成

ネヘミヤ記 6 章

数ある困難を乗り越えて、城壁再建を進めるネヘミヤ。外敵からの攻撃や、民の内部での争いを経て、さらに第6章ではネヘミヤ自身が身の危険や敵の陰謀に遭遇します。それらを乗り越え城壁がついに完成します。しかしそこには、礼拝の民の再建のための、更なるたたかいが待っていました。

1. サヌバラテとゲシエムのたくらみ（1～9節）
 - a. サヌバラテとゲシエムの最初のたくらみは、どのようなものでしたか。

* サヌバラテ：城壁再建工事を妨害したサマリヤの総督
* オノ：エルサレム北西約 50km。ユダヤ、サマリヤ、アシュドデの三地方が接する中立地帯
 - b. それに対して、ネヘミヤはどのように対応したでしょうか。
 - c. 誘いに応じないネヘミヤに対して、サヌバラテは執拗に人をよこし、最後には開封した手紙を届けました。その行動と手紙の内容には、サヌバラテのどのような意図があらわれていると思いますか。
 - d. それに対して、ネヘミヤはどのように対応したでしょうか？

2. もう一つの陰謀（10～14節）

- a. ネヘミヤがシェマヤの家に行ったとき、シェマヤはネヘミヤに何と言いましたか。それに対して、ネヘミヤはどのように対応したでしょうか。

* シェマヤ：職業的預言者の一人

- b. 9節、14節のネヘミヤの祈りから、ネヘミヤのどのような思いが分かりますか。

3. 主の使命を果たそうとする時に、私たちが遭遇するたたかいにはどのようなものがあるでしょうか。

4. 城壁の完成と、更なるたたかい（14～19節）

- a. 城壁が再建したときに、敵はどのような反応をしましたか。それはなぜですか。

- b. その頃、ユダの主だった人々は、トビヤとどのような関係にありましたか。このことは、今後のイスラエルの民の再建にどのような影響があると思いますか。

* トビヤ：アモン人の役人、サヌバラテの下にいた

まとめ

ネヘミヤの姿勢から、あなたは何を教わりましたか。自分自身と共同体の再建について、気をつけるべきことはあるでしょうか。

7

共同体の靈的な再建

ネヘミヤ記8章

エルサレムの城壁が無事に完成したし、民もそれぞれ自分たちのもとの町に住みつきました。ここで、ネヘミヤとエズラがイスラエルの民の靈的な再建に取り掛かりました。

1. イスラエルの民が集まってきた理由は何ですか？

2. 民はどのような気持ちで読まれていた律法を聞きましたか？ (v. 3、v. 5、v. 6、などを参照)

3. エズラをはじめ、多くのレビ人が民に律法を読んだだけではなくて、丁寧に説明もしたことに注目しましょう。
 - a. 彼らが解き明かしを大切にしたのは、なぜだと思いますか？

 - b. 彼らの解き明かしがどのような結果をうみましたか？

4. v. 10～12。民の一体感を強めるためには、ネヘミヤはどのようなことを勧めましたか？

5. v. 1 4 節以下、みことばを実行することは、民にとって仮庵（かりいお）の祭りを祝うことでした。イスラエルの民は労働力を惜まずに山々へ出掛けていきました。レビ記 23：3 3 節～3 6 節と 3 9 節～4 3 節を参照してください。あなたにとって、みことばを実行することは何でしょうか？

まとめ

今日の箇所から、学内やブロックの一体感を強めるためには、あなたはどのようなことを取り入れることができますか？

8

告白の祈り

ネヘミヤ記 9 章

城壁再建後 (6:15) も、民は何度も集っています。共になすべきことは終わらなかったのです。9 章ではイスラエル人による告白の祈りが捧げられています。

1. 祈りの日 (1-5 節)

イスラエルの民の行動（断食、荒布をつける、土をかぶる、集まる、自分たちの罪と先祖の咎を告白、律法の書の朗読、告白した、礼拝した、大声で叫んだ。「主をほえたたえよ」）に注目しましょう。イスラエルの民はどのような思いで祈りに向かっていったのでしょうか。

2. イスラエル人の祈り (5-37 節)

祈りの中で、イスラエル人は天地創造からネヘミヤの時代（当時にとって現在）にいたるまでの歴史を振り返っています。

- a. 祈りの冒頭において、イスラエル人は神様がどのような方であるといっていますか。(5-8 節)
- b. イスラエルの歴史において、どのようなことが繰り返されているでしょうか。(9-31 節) このことから神様がどのような方であることがわかりますか。

c. 32 節以降、現代のイスラエル人のことが祈られています。歴史を振り返ったことはどのような意味があったのでしょうか。

3. 堅い盟約 (38 節)

祈りの後に盟約を結ぶことは、当時の人にとってどのような意味があったのでしょうか。

まとめ

イスラエル人と私達にはどのような共通点があるのでしょうか。

今、私たちがいる交わりで求められている祈りとはどのような祈りでしょうか。

あとがき

2008年8月、“Let us start rebuilding”(ネヘミヤ記 2:18) というテーマ聖句のもと、日本で East Asia Regional Conference (東アジア地区大会) が開催されました。

この聖書研究会テキストはその準備段階において「全国の各大学でもネヘミヤ記を読もうではないか」この思いが集まり、作成されたものです。また同時並行的に、聖書による教育と訓練をどう提供していくか、という議論が主事会でなされました。そこで聖書全66巻からの聖研テキストが必要なのではないか、というアイデアが出されます。そのような経緯を経てこのテキストが生まれました。設問は各作成者が祈りつつ御言葉に聞いて執筆しましたが、もちろん完全ではありません。それでもなお聖書が開かれるところに、主が生きて語りかかるとに信頼を置き、発行させていただきます。

このテキストが学生のみなさんが遣わされた地で、用いられることを祈りつつ。

2009年3月 関東地区主事 高木創

Let us start rebuilding

～ネヘミヤ記の手引き

2009年3月 初版第1刷発行

編者 高木創

著者 小池祐介、小川真、高木創、田中秀亮、塚田安喜、
ブイ・エステル、矢島志朗

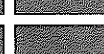
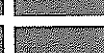
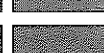
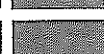
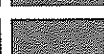
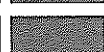
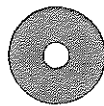
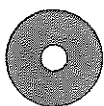
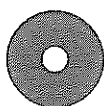
発行者 キリスト者学生会 (KGK)

〒101-0062

千代田区神田駿河台2-1 OCCビル3階

tel.03-3294-6916 fax.03-3294-6050

e-mail office@kgkjapan.net



KGKキリスト者学生会

Let us start rebuilding

～ネヘミヤ記の手引き～